



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2011.5 第24号

但馬国府国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祇布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunji/



門谷墳墓群出土の弥生土器
門谷墳墓群（豊岡市香住）
弥生時代後期前半～中葉

第23回企画展 但馬の弥生土器

弥生土器は、煮る・蒸す・盛り付ける・蓄えるなどを目的とした、弥生時代の人たちの日常生活の道具です。

弥生土器は、歴史の教科書において、「縄文土器に比べて、飾りの少ない実用的な土器」と紹介されています。しかし、実際には、飾りの多いものや実用的ではないものもある、複雑で多様な道具だったのです。そればかりでなく、弥生土器からは地域間交流や社会情勢など、弥生時代の人たちが生きていた時代背景を

もうかがうことができるのです。

今回の展覧会では、但馬各地で出土した弥生土器を紹介し、但馬の弥生文化の成り立ちや人々の暮らしを考えます。

■ 展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

朝来市教育委員会 朝来市埋蔵文化財センター
豊岡市出土文化財管理センター 養父市教育委員会
田畑 基 山根実生子

弥生土器のルーツ

明治17年(1884)、東京都文京区弥生(現在の東京大学構内)の貝塚から、1点の土器が出土しました。それは、当時貝塚土器とよばれた縄文土器でもなければ、古墳から出土する祝部土器(須恵器)でもなかったため、その間の時代のもものと推定され、「弥生土器」とよばれるようになりました。大正時代には、弥生土器にモミの圧痕が付着していることが分かり、弥生土器が日本の農耕民の最初の土器であり、弥生時代は稲作という新しい生活基盤に支えられた時代と認識されたのでした。



「弥生式土器発掘ゆかりの地」の石碑
(東京都文京区弥生2丁目11番地)

弥生土器のタイムスケール

土器は、作り方に一定のきまりごとがある一方で、形や文様は、製作者のイメージや意図などを反映して、少しずつ変化していきます。考古学では、土器の詳細な観察を通して、土器の新旧や年代を考える研究(編年とよびます)が進められてきました。

しかし、編年は、時間の物差しだけのために設けられたものではありません。土器には、地域色や時代性(流行)も大きく反映されていて、そこから当時の社会情勢や、文化が成立する背景をも知ることができるのです。

弥生土器は、大きく第Ⅰ様式から第Ⅴ様式に分けられています。本展では、弥生時代前期=第Ⅰ様式(紀元前7世紀頃~紀元前3世紀)、弥生時代中期=第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ様式(紀元前3世紀~1世紀)、弥生時代後期=第Ⅴ様式(1~3世紀)として紹介していきます。

弥生時代前期の土器と社会

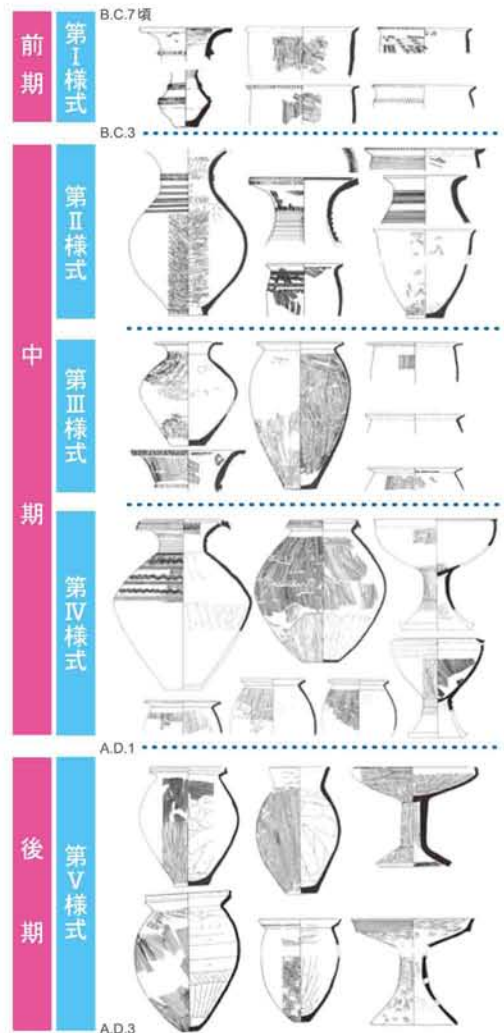
弥生時代は、長らく「稲作を始めた時代」と言われてきました。しかし、近年では縄文時代中期(今から約4500年前)の土器からモミ痕が見つかるなど、稲作が縄文時代に始まっていたことは確実。ただし、当初の稲作は定着せず、本格的な稲作による食料生産経済が始まったのは、弥生時代になってからのことでした。

弥生時代前期の土器では、稲作を反映し、食糧を蓄える壺が多く出土しています。但馬では弥生時代前期の遺跡は少なく、この頃の社会の様相は明らかにはなっていませんが、日本海側を代表する、貝殻で文様をつけた土器が多く見られることが特徴です。

Topics

貝殻腹縁文

貝殻腹縁文とは、二枚貝の合わせ口を土器に押し当ててつけた模様で、日本海沿岸地域に多く見られます。



但馬の弥生土器の略編年表



弥生時代前期の土器(駄坂川原遺跡/豊岡市駄坂)

弥生時代中期の土器と社会

稲作は、豊作を願うまつりと切り離すことはできません。「祭」は「政」とも言われるように、古代では政治と表裏一体。まつりを執りおこなうことは、その政治権力をも示すことだったのです。弥生時代中期には青銅器が普及し、銅鐸や青銅武器を用いたまつりがおこなわれ、政治権力をもつ人が現れました。

弥生時代中期の土器は、櫛状の道具で一度に何本もの線を引いたり、粘土の帯を何条も貼り付けたりする手法で、華やかに飾られていました。土器の装飾は、地域ごとに独自に発達し多様化します。それは、集団のアイデンティティを示すメッセージなのかも知れません。

但馬では、前期に続いて遺跡の数はあまり多くありません。土器の文様は、日本海側だけではなく、瀬戸内の影響を強く受けていたことが分かっています。



ササ遺跡／養父市餅耕地／養父市教育委員会蔵



仲田遺跡／朝来市山東町楽音寺／朝来市埋蔵文化財センター蔵

弥生時代中期の土器

弥生時代後期の土器と社会

弥生時代後期になると、『後漢書』や『三国志』（「魏志倭人伝」）に「倭国大乱」と記されているように、大きな戦乱が起きました。これは、小さなクニ同士がまとまって、大きな権力をもった首長が現れたことを意味し、古墳時代におけるヤマト政権の国土統一へ向けた第一歩となりました。

弥生時代後期の土器は、手間をかけて飾っていたものを簡素化することに特徴があります。また、倭国大乱と時を同じくして、広範囲にわたり地域色が統一される現象もみられます。

但馬では、「複合口縁」や「擬凹線」など、出雲や伯耆など山陰の流れを汲むものが多くみられることから、広く山陰の文化の影響を受けていたことが分かります。



祢布ヶ森遺跡／豊岡市日高町祢布



門谷墳墓群／豊岡市香住



東山墳墓群／豊岡市上鉢山

弥生時代後期の土器

土器の地域性

土器の形や文様には、土器作りの技術や情報を伝えた人々の交流が反映されています。

弥生土器の地域性は、大きく九州・近畿・東日本という3地域に分けることができ、中国・北陸地方などは、それぞれの中間的な要素をもっています。



各地の土器の地域性（弥生時代終わり頃）



各地の地域性が見られる土器群（鎌田若宮3号墳／豊岡市鎌田）

弥生土器から土師器へ

3世紀後半、奈良県で巨大な前方後円墳が築かれ、古墳時代が幕を開けます。古墳時代には、弥生土器の延長線上にある土師器があるものの、弥生土器と土師器との間に明確な線を引くことは困難です。

土師器は、文化交流の増加やヤマト政権の勢力拡大によって、本州から九州までの広い範囲に同じような意匠・技法のものが分布しています。一般に、古墳時代はじめの土師器は、奈良県天理市にある布留遺跡の名をかりて、布留式とよんでいます。ところが、布留式の前にはもう一つの土器群があります。弥生時代につづく最古の土師器で、庄内式という名が与えられています。



「庄内式」と同じ頃の土器
（片引遺跡／朝来市和田山町筒江／朝来市埋蔵文化財センター蔵）



「布留式」と同じ頃の土器
（エノ田井走遺跡／豊岡市香住）

お知らせ

企画展講座「但馬の弥生時代に見る地域性」

日時：平成23年7月2日（土）
午後1時30分～3時

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

講師：松井敬代（豊岡市教育委員会）

定員：40名

*聴講無料（企画展の観覧は有料です）。
事前申込みも不要です。

最新情報はホームページもご覧ください。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

■休館日 水曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）
12月28日～1月4日

■入館料 大人 500(400)円
高校生 200(150)円
小中学生 150(100)円

*（ ）は20名様以上
*県内小中学生は無料
*65歳以上の方は半額



ホームページ QRコード